

1. ウォーターフロント地区再整備の方向性について

【1】策定の趣旨

ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)は、国際会議場をはじめとするMICE機能が集積するとともに、韓国との定期船やアジアからのクルーズ船の寄港など、国内外から多くの人々が訪れるエリアとなっています。

この地区の特性である、MICE機能や海のゲートウェイ機能のさらなる充実・強化を図り、都心部とのアクセス性や回遊性の向上、並びに日常的な賑わいを創出することで、福岡市の成長エンジンとなる都心部の国際競争力の強化を目指すとともに、都心部の貴重な海辺空間を生かし、市民や国内外の方々に親しまれる魅力的な都心部ウォーターフロントづくりに取り組んでいく必要があります。

今後、同地区の魅力的かつスピード感のあるまちづくりの実現に向けて、ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備のあり方や必要な機能などについて、市民のみなさんと共有し、産学民の活力やノウハウを生かしながら、計画的に取り組を進めていくため、「ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備の方向性」について取りまとめるものです。

【2】対象エリア



2. 上位計画での位置づけ

【1】第9次福岡市基本計画など

都心部においては、第9次基本計画などにおいて、核となる天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区、ウォーターフロント地区の3地区について、それぞれの都市機能を高めるとともに、回遊性の向上を図り、地区間相互の連携を高めることとしています。

このうち、中央・博多ふ頭については、中央ふ頭の整備推進やコンベンション機能強化を進め、下記の実施により成長を牽引するゲートウェイづくりや交流がビジネスを生むMICE拠点の形成を図るとともに、拠点間(天神・渡辺通エリア、博多駅周辺エリア)の回遊性を高め、来街者にもわかりやすい、公共交通によるアクセス強化について調査・検討を進めることにしています。

(1) 成長を牽引するゲートウェイづくり

アジアからのクルーズ客船の寄港などに対し、利用者の利便性・快適性の向上を図るため、物流機能の再編を進め、クルーズ客船が発着する拠点港としての機能や、国際・国内旅客ターミナル機能を充実し、来訪者の増加や港の活性化を推進する。

(2) 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

会議、展示、飲食、宿泊などのMICEを支える多様な要素が一体として機能するよう、MICEの拠点機能を高めるとともに、国際的なコンベンション機能を強化するため、新たな展示場を整備する。

(3) 親水空間を生かし、賑わいと風格を備えた国際交流の中核拠点を形成

上記の実施とあわせ、ウォーターフロント地区へのアクセス性や地区内の回遊性を向上させる歩行者ネットワークなどの充実・強化、交通広場やペデストリアンデッキなどの整備、おもてなしの景観づくりを進め、多くの人々が集い交流する海に開かれたアジアへの玄関口づくりを進める。

3. ウォーターフロント地区の現状と課題

【1】MICE機能・集客交流

- ①コンベンション関連施設の一体性・連続性が低い
- ②既存施設の高い稼働率とお断りによる経済的な機会損失
(稼働率80%超、お断り件数年間約50件程度)
- ③ゾーン内の低い回遊性によるコンベンション利用者の利便性低下
- ④都心と近接している貴重な海辺空間を十分に生かしきれていない
- ⑤レストランや店舗が少ないことから、市民が気軽に楽しめる空間になっていない
- ⑥博多駅などの主要交通結節拠点からのスムーズな交通アクセスの不足

【2】港湾機能(人流)

- ①博多港の外航クルーズの寄港回数(91回:H24年)、国際乗降客数
(約85万人:H24年)は、ともに全国No.1
- ②アジアクルーズの拠点として、ポテンシャルを高く評価
- ③一方、クルーズ客の待合施設の不足やバス乗降スペースの分散に加え、クルーズ客船が同時に寄港する際に物流を取り扱う箱崎ふ頭を利用しなければならない
- ④人流と物流の混在

【3】交通機能

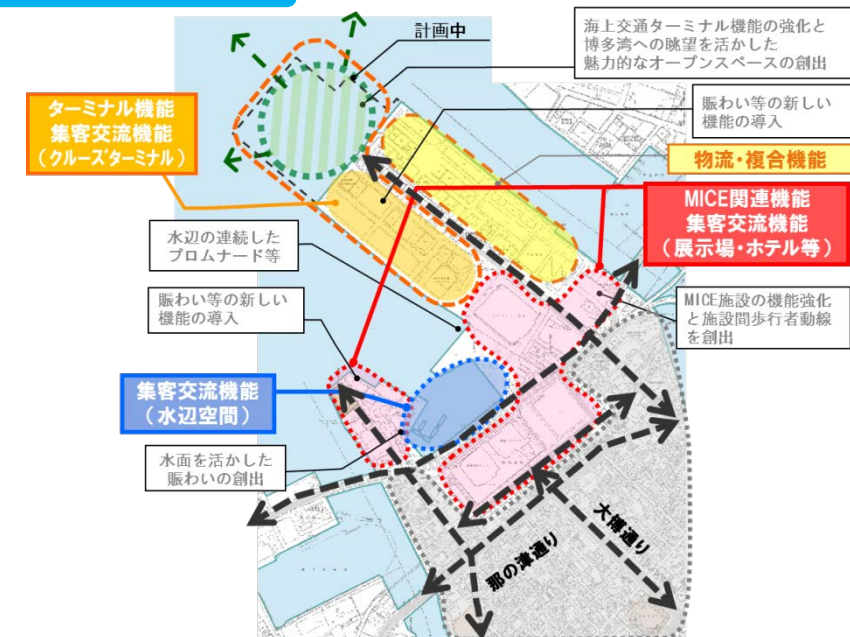
- (1) ウォーターフロント地区と都心部(天神・渡辺通、博多駅周辺地区)を結ぶバス路線や乗り場の分かりにくさ
- (2) イベント時における公共交通アクセスの定時性・利便性の低下
 - ①バスとマイカー・タクシーの輻輳
 - ②一般交通に加えたイベント交通による道路交通混雑の増大
 - ③イベント時における横断歩行者と右左折車両の輻輳
 - ④不規則なマイカー・タクシーの乗降による混乱

4. ウォーターフロント地区再整備の基本方針(案)

【1】基本的な考え方

- ①民間活力を積極的に活用しながら、MICE機能の更なる集積や集客交流機能の充実により、利便性の向上を図るとともに、クルーズ船の対応など港湾(人流)機能の強化と併せて、ウォーターフロント地区の強みを生かした一体的な整備を行う。
- ②ウォーターフロント地区と天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区との交通アクセスの強化や回遊性の向上を図り、3地区を一体として都心部の機能強化を図る。
- ③市民をはじめ国内外からの来街者が楽しめる親水空間やにぎわいを創出し、より魅力的な都心部の新たな拠点を形成する。

【2】ゾーニング



※ゾーニングについては、今後、検討を進めていくためのものであり、確定したものではありません

【3】今後の検討内容及びスケジュール(案)

【検討内容】

ウォーターフロント地区の再整備の基本方針について、さらに議論を深めていくとともに、必要な機能やゾーニング、取組みなどについて検討をしていく。

【スケジュール】

- | | |
|-----------|---|
| ○平成25年12月 | 『ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備の方向性』の検討について(委員会報告) |
| ○平成26年6月 | 『ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備の方向性(案)』について(委員会報告) |
| ○平成26年7月～ | 市民意見募集 |
| ○平成26年9月 | 『ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備の方向性』の策定 |